

問一 a家畜 b脳 c痛快 d境地 e開花

問二

私たちの周りにある、平均的な姿、あるべき姿、期待される像は、一面的であり、一方向から眺めたものに過ぎない。それらのまわりの人がつくり上げた幻想から逃れることにより、押し付けから一旦自由になり、自分自身を多方面からとらえることこそ自分の再発見につながる。筆者は考えているので、人間が勝手に作り出したルールや幻想にとらわれずに生きる雑草が、自身の考えを体現しているものと思われ、好ましく感じているから。

問三

生物が進化の歴史のなかで、他の生物と激しく争う場所を避け、オンリーワンの位置を見付け生きのびていったように、私たちも自身の苦手を決めつけて可能性を狭めることなく、自分を縛る周囲の固定観念から自由になって自分の強みを発見し、オンリーワンの場所を見つけて生きようとする事。

問四

X 恐ろしいと言われていてオオカミが家族のきずなを持つ優しい動物の一面があるように、人も一方向から見て単純に決めつけられるものではないという例。

Y モモンガは、木登りが苦手だが、苦手な木に登り上から見事に滑空することで生きのびているように、人も苦手だからと初めから可能性を閉ざしてしまうことなく、試してみることで新たな強みが発見できることもあるという例。

11

問一 ①しようね ②感謝 ④英知

問二 油

問三 スイートポテト(苺のショートケーキ)

問四

元々真紀ちゃんとは互いに苦手だと感じており、自分のギャグを真正面からとらえて言い返したり馬鹿にしたように笑う真紀ちゃんと会話も食い違ってしまうため、給食の味付けが薄いとを冗談で笑わせて楽しく食べようと意図した軽口が真紀ちゃんには通じなかった。正面切つて怒りをぶつけられてしまい、ショックを受けて、深く傷つき、わだかまりが残っている。

問五

真紀ちゃんと互いに嫌い合っている状況に悩んでいたが、自分たちの仲が悪いのは、どちらが正しいとか間違っているなどと判定されるものではなく、考えても答えの出ない相性の問題なので、そういうものだとそのまま受けとめるしかないとをミーヤンにさとされて、これ以上苦しむ必要がないことに気づき、悩みから解放されたから。

問六

頭の中で真紀ちゃんとは「馬が合わない」からという根源的な考えを反復しているうちに、読点で表現されたように、**耳慣れないその言葉がもつ意味が徐々に腑におちてきて、彼女との関係性があるがままに受け入れることができるように変わってきた。**

問七

近所の家の洋犬に怒っているタロの姿を自分と真紀ちゃんになぞらえて理解し、タロのその状況に対し、自分の体験談をタロに話すことにより、**今まで多くの人たちが人間関係で悩んでいたことで生まれた先人たちの言葉が持つ知恵を改めて自分自身に言っ**て聞かせ、心を整理しようとしているのだと思う。